

特集 地域で羽ばたく中小企業診断士 3

第2章

地域事業者に寄り添って 女性起業家育成にも奮闘

北海道 小西 麻衣さん



須々田 智昭
東京都中小企業診断士協会

北海道札幌市で中小企業診断士として活躍する小西麻衣さん。札幌中小企業支援センターの応援コーディネーターや札幌商工会議所専門相談員として活動するほか、一般社団法人中小企業診断協会北海道の理事も務める。

小西さんに、北海道で活動することになった経緯や地域で活躍するための秘訣について語っていただいた。



北海道で活躍する小西さん

1. 北海道で活動することになった経緯

(1) ご主人の転勤を機に札幌へ移住

小西さんは東京都出身。2012年に都内で中小企業診断士として独立開業した後に、ご主人の転勤により北海道札幌市に1ターン移住した。

2013年の移住直後は、2人のお子さんの育児の合間に、診断士活動を継続。その1年後、札幌中小企業支援センターの応援コーディネーターを担当することになり、本格的に診断士業務を行う。そして、2020年には代表を務めるLOCAL BUSINESS LABが経営革新等支援機関の認定を受けた。

(2) 札幌に移住するまでの経歴

東京外国語大学を卒業後、機械メーカーに入社し、海外部品調達、海外現地法人管理などを担当した。タイの生産工場に3ヵ月間滞在したこともある。帰国後は、経営管理部門にて、現地法人の予算管理、部門別損益管理、IR業務などに従事していた。

いずれは手に職をつけたいという思いもあり、中小企業診断士を目指した。そして2005年に中小企業診断士登録。その後、都内のコンサルティング会社に転職し、中小企業向けに、経営診断・多店舗展開支援・経営計画策定支援など幅広い業務の経験を重ねた。

2012年の独立後には、複数のコンサルティング会社から業務委託を受けながら、主に小売業やサービス業の中小企業支援業務に従事した。そして、2013年にご主人の転勤を機に札幌市への移住となった。

(3) 現在の主な仕事

現在は、創業支援に関する仕事を中心である。主に、札幌中小企業支援センターの応援

コーディネーターや、札幌商工会議所の専門相談員として公的支援機関の依頼を受け、創業相談や経営相談、経営改善支援を行っている。

創業支援では、創業時の事業コンセプト設計や創業計画策定、資金調達、創業後の経営改善など、さまざまな角度から経営者を支援する。また、女性起業家育成事業の相談員として、女性の創業・経営相談も数多く受け、創業後のフォローアップにも取り組んでいる。

札幌商工会議所や北海道信用保証協会、その他の公的支援機関が主催するビジネスセミナーや創業セミナーなどへ登壇する機会も多い。



創業セミナーへの登壇（札幌中小企業支援センター）

2. 北海道の経営環境

(1) 産業構造

道内総生産の産業別構成比は、第1次産業が4.3%（全国平均1.2%）、第2次産業が17.2%（同26.5%）、第3次産業が77.6%（同71.9%）となっており、全国平均に比べ第1次産業と第3次産業の割合が高い^{*1}。

広大で豊かな自然環境を生かした第1次産業は、十勝平野の畑作、石狩・上川地方の稲作、道東地方の酪農業、函館や根室、釧路、オホーツク沿岸などの漁業、道北地域の林業が代表として挙げられる。

第3次産業における観光業は、札幌や函館、小樽、富良野などの代表的な観光地があり、

国内外の観光客からの人気が高い。

(2) 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの感染拡大は、北海道の幅広い産業に深刻な影響を与えている。中でも、観光客の減少や外出の自粛などに伴い、第3次産業の観光業や宿泊業などは需要が大きく落ち込んだ。

北海道の2020年度の観光入込客数（実人数）は、前年度比36.7%減の3,338万人と大きく減少した^{*1}。これは、現在の基準で統計を開始した2008年度以降、人数は過去最低、減少幅は過去最大であった^{*1}。

また、札幌市に目を向けると、2021年度上期に同市を訪れた観光客は352万人であり、コロナ禍前の2019年度上期と比較すると63.7%の減少となった^{*2}。

(3) 北海道の取組み

北海道庁では、社会経済活動を回復させるため、企業に対する経営相談や実質無利子のコロナ融資制度などを推進している。また、中小企業診断協会北海道では、道からの委託を受け、コロナ禍の影響を受けた中小企業に相談・派遣業務を行い、令和3年度は延べ1,400件の派遣を実施。道内企業が、事業活動の継続と雇用の維持を図っていけるよう後押ししている^{*1}。

3. コロナ禍での経営支援

(1) コロナ禍での診断士業務の変化

「コロナ禍でも基本的には診断士活動に大きな変化はなく、引き続き、創業支援関連の仕事が中心です。ただし、405事業の経営改善計画策定は減少した印象があります」

405事業とは、「経営改善計画策定支援事業」の通称で、金融支援を伴う本格的な経営改善が必要な中小企業・小規模事業者を対象として、経営革新等支援機関が経営改善計画の策定を支援し、経営改善の取組みを段階的に促すものである。

「コロナ禍の影響が大きい事業者は、405事業で経営改善計画を策定して返済計画をリスケジュールするといった取組み以前に、コロナ融資で何とか生き延びなければという考えがあるのかもしれない」と小西さんは話す。

(2) アフターコロナの経営支援

「今後は、コロナ融資の返済計画に関する相談が増えてくると思います。返済計画の道筋を示して、しっかり支援していく必要があります」

2020年に創設されたコロナ融資と呼ばれる「新型コロナウイルス感染症対応資金」は、当初3年間は無利子の融資制度である。

道内でも多くの中小企業がコロナ融資を受けており、2023年になれば返済が始まる事業者が現れてくる。引き続き、収益獲得が難しい状況下で、金融機関が納得する返済計画策定の相談が増えることが見込まれる。そういった相談には、力を入れて支援していきたいと小西さんは語る。

4. 地域で活躍するための秘訣

(1) 興味・関心、謙虚な姿勢、リスペクト

前職のコンサルティング会社で、地域の中小企業支援に携わっていた経験もあり、移住した北海道での企業支援には違和感なく順応できた小西さん。

「地元の名産品に興味・関心を持つ」

「中小企業の皆様から教えていただくという謙虚な姿勢を持つ」

「地域や企業をリスペクトする」

当たり前の話かもしれないが、地域で活動するうえで大切なのは中小企業診断士の知識やスキルだけではなく、相手に向き合う姿勢も問われる。

加えて、北海道の人たちは、東京の企業の事例や取組みへの興味・関心が高い。北海道の企業でも参考にできる事例やネタを小話として共有すると、喜んでいただけることが多いと小西さんは言う。

(2) 相談者とともに解決の糸口を探る

女性起業家育成事業の相談員を担う窓口では、小さいお子さんを連れて来られる方や子育てが終わって一段落した方など、さまざまな女性が、それぞれの思いを持って訪れる。「今は主婦ですが、やりたいことがあって」、「初めてこんなことを他人に話すのですが」といった長年温めてきた企画の相談も多い。

どんな相談に対しても「たとえ雲をつかむような話でもやりたいことをお話しください。実現できるか真剣に考えます」と親身になって、相談者とともに解決の糸口を探るのが小西さんの支援スタイルである。

「女性の起業は、動機や目的が多様です。事業のことだけではなく、女性ならではの不安や悩みを一緒に考えていけたらと思います」



相談窓口での相談風景

(3) 相談しやすい環境を構築する

「創業は敷居が高そうで、なかなか相談に行けない」という声もある。

LOCAL BUSINESS LABのホームページでは、無料相談が可能なオンライン予約システムを活用し、創業相談や経営相談に対する敷居を低くするための工夫も行っている。

相談しやすい環境を整えながらも、女性起業家の精神的な自立と、経済的かつ経営的な自立の両面を支援するのが、中小企業診断士・経営コンサルタントの役割だと小西さんは語る。

「女性同士で話しやすかった、相談できてよかったという言葉をいただけるとうれしい

です。また、起業した方から定期的にお手紙をいただいたり、創業支援をしたお店が人気店になったりすることも大きな喜びです」

LOCAL BUSINESS LAB の無料相談予約サイト

5. 今後の展望

(1) 北海道で活動する中小企業診断士へ

「専門性があれば、活躍の機会はたくさんあります」

小西さんが活動拠点とする札幌市は商業とサービスの街である。そのため、観光業や飲食業に特化しているなどの専門性は貴重になる。

また、北海道は第1次産業の総生産が高く、今後は第1次産業の6次産業化や高付加価値化への取組みも重要になる。6次産業化の分野でも中小企業診断士の活躍の場は多いと小西さんは言う。

(2) 地域の小さなビジネス・事業者の発展

以下は、LOCAL BUSINESS LAB の Web サイト TOP ページのメッセージである。

地域の小さなビジネス・事業者の発展を支援します。

—Find a Clue 糸口を、見つける。—

中小企業診断士は、中小事業者のみなさんの町医者です。

「母」親身になって考え、解決の「糸口(Clue)」を提供します。

小西さんの実家は、東京で木型製作工場を営んでいる。幼少期は、工場を経営する父の背中を見て育った。そして、事業環境が変化する中で、自分一人ですべての経営判断を行わなければならない経営者の苦労や辛さを幼心に感じていた。

だからこそ、町医者のように中小企業の経営者に寄り添って話を聞き、母のように親身になって一緒に考えていきたい。中小企業診断士として、北海道の小さなビジネスや事業者の発展を支援するために、アフターコロナを見据えた企業支援にしっかりと取り組んでいきたいと小西さんは力強く語った。

〈参考文献〉

- ※1 北海道総合政策部知事室広報広聴課「北海道データブック2021」
- ※2 札幌市「観光統計データ」

小西 麻衣

(こにし まい)

東京外国語大学卒業後、機械メーカー、コンサルティング会社に勤務。2005年中小企業診断士登録、2012年に独立・開業。経営革新等支援機関・LOCAL BUSINESS LAB 代表。一般社団法人中小企業診断協会北海道理事、一般社団法人金融検定協会認定ターンアラウンドマネージャー (TAM)。



須々田 智昭

(すずた ともあき)

千葉大学工学部卒業後、ホテル経営会社に勤務。経営企画や経理業務のほか、M&A と PMI にも従事。在職中に MBA を取得し、現在は管理職として経理部に在籍。2021年中小企業診断士登録。

